

関電金品受領 再稼働へもたれ合い

原発マネー還流 疑惑深まる

「高浜町元助役(仮)という喝的な人物」「金品を返したくても返せなかった。2日目の記者会見で、関西電力の岩根茂樹社長はこう繰り返しました。他方で関電は、元助役に工事の重要情報を提供しつつ、元助役が関係する地元企業に多額の発注をしていました。原発再稼働に向けた関電と元助役のもたれ合いの構図が鮮明になり、「原発マネー還流」の疑惑がますます深まりました。

群を抜く 関係企業への便宜

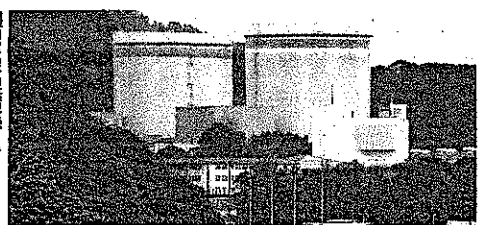
金品を受領していた関西電力の幹部ら		
八木誠 会長(元原子力事業本部長)	859万円	商品券、金貨、金杯など
岩根茂樹 社長	150万円	金貨
豊松秀己 原子力事業本部長(元副社長)	1億1057万円	現金、商品券、金貨など
森中郁雄 副社長・原子力事業本部長代理	4060万円	現金、商品券、金貨など
鈴木聡 原子力事業本部副本部長	1億2367万円	現金、商品券、ゴールドなど
大塚茂樹 原子力事業本部副本部長	720万円	現金、商品券、スーツなど
白井良平 元原子力事業本部長代理	790万円	現金、商品券、金貨など
勝山佳明 元原子力事業本部副本部長	2万円	商品券
右城望 元原子力事業本部副本部長	690万円	現金、商品券、スーツ
善家保雄 原子力事業本部副本部長	30万円	商品券
長谷泰行 元高浜発電所長	230万円	商品券、スーツ
宮田賢司 高浜発電所長	40万円	商品券

※氏名公表は20人のうち12人、金額はいずれも換算合計

「元助役は どう喝的人物」と強調

- 1969年12月 森山栄治氏、福井県高浜町職員に
- 70~71年 高浜原発1、2号機着工
- 74~75年 高浜原発1、2号機運転開始
- 77年4月 森山氏、高浜町助役に
- 80年11月 高浜原発3、4号機着工
- 85年 高浜原発3、4号機運転開始
- 87年5月 森山氏、助役を退任
- 2011年3月 東日本大震災、高浜原発停止
- 16年 高浜原発3、4号機再稼働。その後仮処分命令で運転停止
- 17年 高浜原発3、4号機再び稼働
- 18年1月 金沢国税局が高浜町の建設会社「吉田開発」を税務調査
- 7月 関電、社内調査委員会設置
- 19年3月 森山氏が死去
- 9月 関電が記者会見
- 10月 関電、2度目の会見

関電と森山元助役をめぐる動き



2号機1号機高浜町

「金品を返却したかったが、『無礼者』などと激罵された『娘がかわいくないのか?』とすぐ罵られた。2日の会見で公表された、金品受領問題に関する関電内部の報告書は、森山氏をそう描きました。特異な人物で怖かった。同社は金沢国税局の税務調査で、森山氏に3億円の資金を提供していたとされ

「機嫌を損ねるとリスク」 11年3月11日の東京電力福島第1原発事故後、原発に反対する国民世論は急速に強まりました。そんな中、なせ関電と森山氏の癒着関係が続いたのか。福島原発事故をきっかけに、関電の原発が順次停止し、経営は急速に悪化した。ある電力会社の元幹部は「関電は特に原発の割合が高かった」といいます。事故前の10年度は発電実績で原発は44%を占めていました。それが14年には関電の全原発が停止。15年3月期連結決算では4年連続の赤字となりました。同年6月には電気料金を値上げし、苦境を乗り切るため、関電にとって原発再稼働が喫緊の課題となりました。原子力規制委員会の新規制基準に基づき各原発で大規模

「元助役は どう喝的人物」と強調 森山氏から面談要請があった場合、担当者は工事の担当部門から工事量や概算額を算出させ、資料や関係データを同氏に提供。森山氏が関電幹部に金品を渡した際、再々同席していた地元の建設会社「吉田開発」が関電から多額の事業を受注するようになりま

「機嫌を損ねるとリスク」 岩根社長は「森山氏からの金品の見返りとして、工事発注で特別扱いをしたこととはない」と強調。「発注額もプロセスも適正だった」と従来の立場を改めて示しました。しかし会見資料の一つ、「吉田開発への発注案件リスト」の金額などはすべて黒塗り。「適切」という判断の根拠は示されませんでした。7年間で約3・2億円に上る森山氏から関電経営陣への金品提供が、「原発マネー」の還流ではないかと指摘も続きました。これに対し関電側は「金品の出所についてはまったく承知していない」と(八木誠会長)「考え及ばない」(岩根社長) などと繰り返しました。記者団から「これだけの金品提供の原資について、長い間誰も疑問を持たなかったのか」と重ねて問われると、同社幹部が「金品の出所については分からず、それについて詰めて考えたことはなかった」と報告書の記述を読み上げるのみ、原発マネー還流の有無は、解明すべき大きな課題として残りました。

「元助役は どう喝的人物」と強調 森山氏から面談要請があった場合、担当者は工事の担当部門から工事量や概算額を算出させ、資料や関係データを同氏に提供。森山氏が関電幹部に金品を渡した際、再々同席していた地元の建設会社「吉田開発」が関電から多額の事業を受注するようになりま